

さわらび

2019. 3. 8 No. 32 文責：大塚

1月から2月にかけて学校評価のためのアンケートにご協力いただいたり、学校運営協議会をひらいて「学校評価についての関係者評価」のご意見をいただくなどして、下記の平成30年度の学校評価書をまとめました。この1年間の本校の取組を振り返ってのものです。成果もあれば課題もあります。後半には、この振り返りをもとにしての次年度の取組について記載しましたので、ご一読いただければと思います。

平成31年3月7日

平成30年度 学校評価書

四万十市立藤岡中学校
 学校長 大塚明人 印

1. 学校教育目標 心豊かで たくましく 主体的に活動できる生徒の育成

2. 本校の現状

平成30年度全国学力・学習状況調査（自校採点）においては、各教科とも県平均値を概ね上回る状況にある。生徒の学習に対する姿勢も真面目で、小学校から積み重ねられてきた日々の学びがここに現れている。しかしながら、問題別に分析すると記述式問題においては課題が見られる。今年度から全校生徒7名という極小規模校になり、おとなしく自己表現が苦手な傾向の生徒たちの性格とも相まって、生徒同士の対話的な学びや活動が他校のようにはいかない状況もある。また、部活動においても全校部活動は継続しているが、活動内容の見直しをして男子は「野球・陸上」、女子は「陸上」でスタートした。

このような現状の中で、小規模校のよき・利点を生かしながら下記の評価項目についての実践を行い、生徒の学力と自己有用感の向上を図り「心豊かで、たくましく、主体的に活動できる生徒の育成」を目指していきたい。

3. 本年度の評価項目

- [1]学力向上**
 ①学力向上のための組織的な校内研修等の取組
 ②子どもにわかる授業づくり
 ③予習・復習の質と量を高める取組
- [2]生徒指導**
 ①いじめの防止等のための取組
 ②豊かな心の育成
 ③不登校0名を目指す取組
- [3]学校・家庭・地域の連携・協働**
 ①小中の円滑な接続の推進
 ②みんなであいさつ運動
 ③PTA・各学校支援組織との連携
 ④中中連携の推進
- [4]指定事業の活用**
 ①土曜授業の実施
 ②キャリア教育の推進

4. 自己評価

評価項目		評価指標	取組状況・成果	評定	次年度の方策
大	中				
	①学力向上のための組織的な校内研修等の取組	○年間5回講師を招聘し、全教員が研究授業を行い全体で協議する。 ○研究授業で整理された課題と改善策を「授業づくり」部会が提起して日々の実践にかかす。 ○小中合同校内研を学期に1回以上実施する。	○全教員が講師を招聘した研究授業（年間5回）を行い研修を深めた。また、1回は模擬授業を取り入れた。 ○授業づくり部会からは、授業研究で共有した要点が配布され、日常化につながった。 ○小中合同研は、1学期1回、夏季休業中1回、2学期1回であった。	3	○より小規模の職員集団での組織的な校内研修について、工夫した取組、効果的な取組を行う。 *全員の授業研究 *教科間連携の取組（教科の枠を越えた研修/日常の授業を全員で参観） *小中合同研の実施
[1]	学力向上 ②子どもにわかる授業づくり	○「生徒指導の3機能」を核として、「主体的」「対話的」で「深い学び」につながる授業を行う。 ○基礎基本定着のための帯タイムを週ごとに国数英で行い、1年間継続する。 ○県学テで全学年全教科県平均+10P以上。 ○県版学テの記述式問題の正答率を、全教科平均50%以上。	○数値目標としてあげた高知県学力定着状況調査においては、全学年全教科の平均正答率は全国比+15.8P、記述式問題正答率は全教科平均72.8%と目標を大きく上回った。 ○「生徒指導の3機能を生かした授業づくり」と「わかる授業づくりのための5つのポイント」は大事にされたが、より一層の授業改善をしなければならぬ。 ○帯タイムでの国数英の定着の取組は、3学期に継続させることができなかった。	3	○県版学テの数値目標、平均正答率全国比+10P以上と記述式問題の平均正答率50%以上を継続する。 ○「生徒指導の3機能を生かした授業づくり」「分かる授業づくりの5つのポイント」の継続。 ○帯タイムの目的、必要性、内容等について、生徒の実態に合わせた検討をする。

	③予習・復習の質と量を高める取組	授業ノートを改善し、授業とサイクル化した自主的な家庭学習を推進するとともに、宿題提出率100%とする。	授業ノートの工夫改善を組織的に進めることはできなかった。家庭学習とのサイクル化は、各教科ごとに工夫した取組ができた。宿題提出率は90%前後で、100%は達成できなかった。	2	研究の柱の1つに据える。卒業後も自学自習できる生徒を育てるための、効果的な家庭学習について研究・指導する。
〔2〕生徒指導	①いじめの防止等のための取組	○Q,Uを年間2回、いじめに関するアンケート年間3回、「3日たっていかがですかアンケート」年間3回を計画的に実施する。 ○S,Cと連携してエンカウンターを、学期に教員運営1回、生徒運営1回を行う。 ○生徒情報の共有を毎日行う。	○Q,U、いじめに関するアンケート、3日たっていかがですかアンケートは計画的に実施して、生徒理解の手だてとして活用した。 ○構成的グループエンカウンターは、ほぼ計画通りの実施である。楽しい雰囲気での時間を過ごすことができた。 ○生徒情報の共有は、毎朝を基本として日常的に行なった。	3	○Q,U、いじめに関するアンケートは継続する。3日たっていかがですかアンケートは、より少数になることから実施を検討する。 ○構成的グループエンカウンターは、生徒主体の行事等に変更することも検討する。 ○生徒情報の共有は継続する。
	②豊かな心の育成	○道徳教育・人権教育の推進を図り、保護者・地域の方を対象とした公開授業を各1回以上行い、連携した取り組みを目指す。 ○全学年合同学級の実施により、他者の意見に触れる機会を増やす。 ○「自分によいところがある」85%以上。	○道徳教育・人権教育の授業公開は、11月と1月にそれぞれ実施した。保護者の参観や地域の方のゲストティーチャーとしての参加もあった。 ○朝読書・朝学活・終学活をはじめとして、体育や美術なども合同授業を実施した。他者の意見に触れる機会としては、総合学習等も有効に活用した。 ○「自分によいところがある」の肯定的意見は100%である。	4	○道徳教育・人権教育の公開授業は5月と1月に行う。また、冊子「高知の道徳」の活用をすすめる。 ○キャリア教育・総合学習の内容とも関連した、地域での学びや体験学習を中心に据えて取り組み。 ○「自分によいところがある」の肯定的意見100%を目指す。
	③不登校0名を目指す取組	「1②子どもにわかる授業づくり」「2①いじめ防止等の取組」に加えて ○生徒作品が掲示されている学校環境。 ○生活日誌を活用したきめ細かい指導の継続。 ○生徒主体の学校行事の実施。	○校内の掲示物において、生徒作品と生徒の活動写真を多く取り入れた。 ○生活日誌のコメント欄を活用した丁寧な支援を行った。また、2学期から取り入れたキャリアノートについても同様に有効に活用できた。 ○行事においては、生徒がリーダーとして関わることはあるが、生徒主体には少し及んでいない。	3	継続するとともに、教職員の研修の充実を図る。
〔3〕学校・家庭・地域の連携・協働	①小中の円滑な接続の推進	○保小中合同職員会（学期に1回） ○小中合同校内研（学期に1回） ○わらたけノビノビ会（年間5回） などを活用して、計画的・継続的に学力と生活についての連携をすすめる。	○保小中合同職員会は3回実施。年間の取組の打ち合わせ、合同運動会の取組、年間の総括であった。 ○小中合同研は3回実施。附属小学校の教員を招聘しての研修に参加した。また、不祥事防止に関わる研修も合同で実施した。 ○わらたけノビノビ会は5回実施。子どもたちの生活、学力に関わって、地域との連携の中で考える場として有効であった。	3	継続する。
	②みんなであいさつ運動	月1回+交通安全週間に生徒会執行部が中心となり、あいさつ運動を行うとともに、部活動等でのあいさつ等、礼儀の大切さを常時指導する。	あいさつ運動は計画的に実施した。あいさつ自体についても、2学期後半から生徒会の取組等によって、かなり変容がありよい状態になった。しかし、校内にとどまらず校外・地域でのあいさつや声かけまでは及んでいない。	3	生徒会の取組として、より生徒の参画したものにしていく。
	③PTA・各学校支援組織との連携	各組織の定例会議を計画的に行い（PTA役員会4回、学校運営協議会5回等）、地域・保護者との信頼関係を構築しながら実践をすすめる。	PTA役員会は定例会を実施して、ほぼ全員参加での運営・協議ができた。次年度からの小中合同PTA発足に向けても準備を進めてきた。学校運営協議会も計画通り実施して、地域・学校が連携した防災教育や学校の課題についての検討ができた。	3	継続していく。
	④中中連携の推進	コミュニケーション力の向上のため、近隣中学校と授業、行事等の交流を学期に2回以上行う。また、部活動も他校と連合で取り組む。	1学期「3校合同宿泊研」2学期「音楽祭に向けての合同練習」3学期「合同修学旅行に向けて」を実施して、少数での弱さを補う取組となった。また、部活動は3年生の引退する夏までは、中村西中と合同で野球を実施した。	3	○生徒の活動の交流は、合同修学旅行、合同音楽等が予定されている。また、部活動も必要に応じて合同練習等を行う。 ○職員研修の面からも中中連携をすすめる。特に同規模の学校との合同研を計画的に実施する。

〔4〕 指定事業の活用	①土曜授業の実施	○保護者・地域、保育所や小学校と連携した土曜授業を年間6回実施し、お互いの信頼関係を強くするとともに、効果的な連携を目指す。 ○キャリア教育にも連動させた講師招聘により土曜授業の内容充実も図る。	○土曜授業は、計画どおりに実施した。7月の竹屋敷地区交流事業は台風のため中止して、8月の愛校作業を土曜授業として実施した。どの実施日も保護者の参加が多かったことはありがたかった。 ○キャリア教育と連動した講師招聘としては、7月実施の環境教育、1月実施の人権教育講演会がある。	3	○土曜授業は年間10回程度を目安として実施する。家庭・地域連携の内容、学力向上の内容等、工夫していく。 ○キャリア教育と連動した講師招聘も継続していく。
	②キャリア教育の推進	○「仕事の魅力や生き方」に触れる機会を年間6回以上設けて、自分の生き方や夢を考えるきっかけとする。 ○特別活動を要としたキャリア教育の推進により、生徒自身が全教育活動の中でのキャリア教育の視点を意識した実践とする。 ○「自分の将来に夢や希望を持っている」100%。	○「仕事の魅力や生き方」に触れる機会として、総合学習の内容にも関連させながら、8人の方との出会いがあった。また、その他にも四万十の郷での交流学習や生華園交流学習等も有意義であった。 ○キャリアノートの取組をスタートして、次年度に繋がるものになっている。 ○「自分の将来に夢や希望を持っている」は、86%であった。	3	○継続していく。

4段階評価（4 目標を十分に達成、 3 ほぼ目標を達成、 2 やや不十分、 1 改善を要する）

5. 学校関係者評価

○PTAとしても地域の皆さんの協力もあって感謝している。また、小規模校とはいえ、このようにきちんと取り組んでくれていることはありがたい。
○蕨岡中学校が再編された後のことを、順次考えていく必要があると思う。将来的には、たとえば保小中合同の廃品回収などの活動場所も考えていきたい。
○これからは、益々地域の皆さんと一緒に取り組んでいくことが欠かせない。蕨岡中学校区の合同運動会も中学生がいたからこそできてきたことで、今まで以上に地域との連携が大切になる。
○次年度に向けての話のなかで学校長からもあったように、少人数でも前向きに進んでいける学校にしてほしい。

※このような年度末検証をもとにして、次年度に向けての取組を最後のページに掲載しています。どうぞ、2019年度も本校の取組にご理解・ご協力をお願いいたします。

■ 3/7（木）、3年生お別れ遠足として、土佐清水市竜串や以布利に行ってきました。



バスの中では、生徒会が用意してくれたレク。この日は、ALTのジョーダン先生も参加してくれるとのことで、英語を使ってのレクでした。到着後は、足摺海洋館の見学とエサやり体験。そして、海底館に入ったあと昼食。ジョン万次郎資料館を経て、以布利にある大阪海遊館以布利センターへ……。シンベエザメのエサやりを見学しました。飼育員さんがウエットスーツで水槽に入って手でシンベエザメに直接エサを与える様子は圧巻で、「おおっ、すごい」の歓声がありました。



【次年度に向けて】

■授業ノートの充実と家庭学習

前掲の学校評価書にも記載しましたが、1月に実施した高知県学力定着状況調査においては、全学年全教科の平均正答率は全国比+15.8P、記述式問題正答率は全教科平均72.8%（全国比+27.7P）と全国との比較において上回っています。次年度も「主体的・対話的で深い学び」を大事にしながら、生徒の力を伸ばしていきたいと考えていますが、そのためには、本校が大事にしてきた「わかる授業づくりの5つのポイント」等の継続はもちろんのこと、今年度課題として残った授業ノートの充実と家庭学習について取り組んでいくことが欠かせません。

生徒アンケートにおいても、「毎日の家庭学習で次の日の授業の予習ができている」についての回答は43%と過半数を超えていません。小規模校の利点である、生徒1人1人に行き届いた支援ができることを生かしてすすめていきます。

■キャリア教育の充実～あいさつ・コミュニケーションと地域に根ざした取組～

学力向上の基盤は、安心・安全な学校です。特に、安心して過ごせる教室であることは、子どもたちの力を伸ばすための大切な環境です。このことをまず第1に考えて、家庭・地域・関係者との連携の中で取り組んでいきます。

また、本校の子どもたちの課題としてあげられる、コミュニケーション力についても教育活動の中に位置づけていきます。たとえば、今年度「キャリアノート」を始めたキャリア教育では総合学習を中心としながら、次年度も地域を学びのフィールドとして、どんどん地域に出向いてお話を伺ったり聞き取ったことをまとめたりして学習を進めます。そのなかでは、「あいさつ」「話す」「聞く」「まとめる」「発信する」活動が大切になります。このような自分の思いを表現することや他者とつながる力は、本校を卒業後の子どもたちの生活の中でとても大事なことだと考えています。

■その他～次年度、取り組もうと現在準備しているもの～

○学校の空き教室開放

「学校評価のためのアンケート/地域関係者用」では、空き教室の活用についてのご意見やアイデアをいただきました。

- | | |
|-----|--|
| *質問 | 空き教室の活用方法として……参加する人、使用する団体等が少しでもあると思われるものを3つ選んでください。（ただし、使用時間は学校の授業時間内<平日8:30～16:30>とします。） |
| *回答 | ・地域の趣味の集まりに使う。
・防災に関わる活動に使う。
・中学校が企画するおとな向け講座（書道、絵画、パソコン等）に使う
・地域の伝統文化に関わる活動に使う
・老人クラブの活動に使う 等 |

地域の皆様が気軽に訪れてくださる環境で学べることは、子どもたちにとってとても有意義なことだと思います。次年度、学校の方でも検討して、できることから地域の皆様に呼びかけさせていただきたいと思います。その際には、ぜひ多くの皆様のご来校をお待ちしております。

○はるかのひまわりプロジェクトへの参加

4月21日から、現在の1、2年生が関西方面へ修学旅行に行きます。1日目には、阪神淡路大震災等にかかわる防災学習もします。その延長として取り組もうと申し込んでいるのが、「はるかのひまわりプロジェクト」です。これは、阪神淡路大震災で家屋の下敷きになって亡くなった小学生「はるかちゃん」に由来するひまわりを咲かせる取組です。はるかちゃんが亡くなった場所に翌夏咲いたひまわりから採取した種を全国で咲かせて、毎年、種の里帰りとともに命の大切さを伝えようと広がっているものです。修学旅行帰校後からスタート。育てる場所は、坂折橋側のグラウンド入り口の右側（アルミ缶回収箱はそのままです）です。夏にはこの思いのこもったひまわりを、皆さんに見ていただければと思っています。

